

札幌市立稲積中学校の取組

1 道徳科の指導について

・授業づくりのポイント

「中心発問を考える」、ここが一番大事なところである。サッと読んでわかるような「教材レベル」、登場人物が感じたことや考えたことを理解する「読解レベル」にならないようにしなければならない。これら 2 つの根本にある道徳的価値についての考え方や生き方、信念に迫る「道徳的価値レベル」の発問を考えていく必要がある。ただ、実際の授業場面において「中心発問を考える」のはたいへん難しい。今回の研究開発授業の指導案でも中心発問について議論を繰り返し、中心発問が変わっていったという経緯がある。

・多様な学習展開

教科書だけでなく、教科書にあった映像資料を用いる。ネームプレートの使用、教科書に綴じこまれている「心情円」の効果的活用なども検討していく必要がある。

・学習指導における配慮事項

よりよい授業を行うために、「ローテーション道徳」を考えている。例えば 4 クラスなら、1 人の教師が同じ授業を 4 回行うという方法である。1 人が考えた指導案を学級担任がそれぞれの学級で行うという方法もあり得るが、授業の改善ということを考えれば、指導案を考えた教師が授業を行う方がよいと考える。また、指導者が替わることで、生徒が見せる姿が変化することも考えられ、生徒の可能性を引き出す機会になる。この際、授業中の生徒観察や評価資料の収集をしっかりと行い、事後に情報の共有を行うことが配慮事項と言える。

2 道徳科の評価について

・評価の工夫と留意点

今年度の研究重点は授業実践と評価の考え方についてであった。評価の実際についてはまだまだこれからという段階だが、以下の点について検討していきたいと考えている。

【道徳ノートの使用】

・道徳ノートを用意し、上半分は自由記述、下半分はプリントを貼る。プリントに

書かれたものを評価材料とする。授業者は書かれたものに2色のマーカーで線を引く（例えば、多面的・多角的な見方が見られれば赤のマーカー、自分ごととしてとらえていけば青というように）。担任は評価をする際、そのマーカーの色を見て評価の視点を決定する。

【学期ごとの振り返りの時間の設定】

学期の最後に、道徳科の振り返りの時間を行う。どの授業が一番印象に残っているか、その時考えたことや感じたことはどういうことか等を振り返らせる。また、その振り返りを少人数のグループや学級単位でシェアリングし、生徒の考えを深めさせる時間とする。このことを、実際の評価にもつなげていければと考えている。

【所見について】

まずは、通知表や要録がどのようなものになるのか、文字数は何文字になるのかが決まってからでも遅くないと考えている。ただ、各担任だけに任せた評価だと道徳科の所見としてふさわしくないものも出てくる恐れがある。道徳科の評価は学習過程の評価であり、この考え方を徹底する必要がある。また、ある程度の所見モデルの提示も必要であると考えている。

・校内で共通理解を図るための手だて

本校では校内研修会で教員の疑問や意見をもとに、ともに学んでいく研修会を大事にしたいと考えている。また、道徳教育推進教師に任せるのではなく、希望者による「道徳部会」をつくり、考え、議論し、研修会に提案する形をとっている。みんなの疑問や悩みを共有化し、よりよい道徳科を作り上げていく、そのプロセスを大切にしたいと考えている。